

電話会議開催日：2025年2月12日

2025年3月期（2024年度）第3四半期連結決算 電話会議 内容説明スクリプト

I. 全般概況

本日発表いたしました、「業績予想の修正、減損損失の計上及び配当予想の修正に関するお知らせ」と、当社 2025 年 3 月期第 3 四半期連結決算の概要についてご説明します。なお、事業環境等につきましては、決算短信に記載しておりますので、のちほどご参照ください。

1. 業績予想の修正、減損損失の計上及び配当予想の修正について

はじめに、「業績予想の修正、減損損失の計上及び配当予想の修正に関するお知らせ」についてご説明します。

1) 業績予想の修正と減損損失の計上について

業績予想については、当第 3 四半期にコーラルベイニッケル社（Coral Bay Nickel Corporation、フィリピン共和国、以下「CBNC」）等の減損損失 535 億円を計上したことにより、前回予想よりも減益の見通しになったため、2025 年 3 月期通期連結業績予想を修正いたします。

減損損失については、まず、当社のニッケル製錬子会社である CBNC において、501 億円の減損損失を計上しました。ニッケル・コバルト価格の下落、生産コストの上昇、鉱石品質の低下に伴う将来的な生産量の見直しを踏まえ、CBNC の経済性を総合的に評価した結果、当第 3 四半期に CBNC のニッケル製錬関係の固定資産について、減損損失を計上することになりました。

また、当社のニッケル事業の将来的な戦略についての検討を進める中で、製錬プロセスの試験で使用していた一部設備を転用せず撤去することとし、当該設備の残存簿価相当額 34 億円の減損損失を計上しました。

ニッケルの需給バランスは供給過多の状態が当面の間続くと考えられており、その事業環境は厳しい状況が続くと見込まれています。しかし、ニッケルは経済成長にとって、また再生可能エネルギー技術やバッテリー製造に不可欠な要素としてエネルギー転換にも不可欠な存在です。

当社は、CBNC において、世界で初めて低品位ニッケル酸化鉱からニッケルを回収する HPAL 技術の商業化に成功し、2005 年からの操業を通じて技術や操業のノウハウを蓄積してきました。CBNC の今後の具体的な操業計画は現在検討中ですが、これまで同様、当社はものづくり企業としてコスト削減や生産効率の改善に取り組むことで企業価値の最大化に努めてまいります。

2) 配当予想の修正について

当社は、連結自己資本比率 50%超を維持することを財務戦略の基本とし、配当方針として、「剰余金の配当は、原則連結配当性向 35%以上とし、下限指標は DOE1.5%とする」を掲げています。

今回見直しを行った連結業績予想に基づき、2024 年度の年間配当予想の見直しを行いました。今回は連結配当性向 35%よりも DOE1.5%の方が大きくなることから、DOE1.5%を適用することとし、期末配当の予想については前回発表予想の 1 株当たり 50 円に対し 5 円増配し、55 円といたします。

この結果、1 株当たりの年間配当額は 104 円となる予定です。

2. 2025年3月期（2024年度）第3四半期 連結決算 業績概要

続いて、2024年度第3四半期の連結決算の概況をご説明します。決算補足説明資料の2ページをご覧ください。

まず、2024年度第3四半期累計期間の金属価格および為替レートについてご説明します。

3月決算会社に適用される4-12月平均の銅と金の価格は前年に対して上昇し、ニッケル、コバルトの価格は下落し、為替は円安になりました。

また、12月決算会社に適用される1-9月平均の銅と金の価格も前年を上回り、為替は円安になりました。

連結売上高は、前年同期間に比べ1,078億円増加し、11,928億円となりました。

連結税引前利益は、前年同期間に比べ393億円減少し、481億円となりました。

2ページのグラフでお示しているとおり、銅価格と金価格の上昇や円安の進行はあったものの、減損損失の計上やニッケル・コバルト価格の下落、海外銅鉱山でのコスト単価差の悪化などが減益の主な要因です。

3. 2024年度 連結業績予想

続いて、今回見直しました当年度の連結業績予想の概況をご説明します。決算補足説明資料の3ページをご覧ください。

連結税引前利益は、2月予想は11月予想に対して380億円の減益となる580億円と予想しています。その主な増減要因は3ページ下段のグラフでお示しているとおりです。金価格の上昇や為替の円安を想定していることや、それに伴う在庫評価影響などの好転要因はあるものの、「大型プロジェクト効果」としてお示しているケブラダ・ブランカ銅鉱山（チリ）とコテ金鉱山（カナダ）の損益が、減産減販やコスト上昇の影響などにより11月予想から110億円程度悪化すると見込んだことや、減損損失の計上が減益の主な要因です。

なお、11月予想でもご説明した今年度中に発現する可能性がある減益要因「リスク要因」については、今回改めて内容の見直しを行い、その結果、11月予想と同額を2月予想におり込んでいます。

4. 2024年度 実力損益

3ページに掲載したグラフの右端に、2024年度の「実力損益」の予想を掲載しています。これは、2024年度2月業績予想から、金属価格や為替の変動局面において発生する一時的な要因と、その他の特殊要因を除いたものです。

今回の業績予想における実力損益は「1,100～1,000億円」で、前回予想から100億円の悪化です。

金価格を上昇方向に、為替を円安方向に見直しましたが、大型プロジェクト効果の減少や数量差、コスト単価差などが、実力損益の低下要因となっています。

数量差やコスト単価差など、「ものづくり」の部分で実力損益が低下している点は、当社として課題感を持って手を打っていかねばならない部分です。また、ケブラダ・ブランカ銅鉱山やコテ金鉱山についても、JVパートナーと協働し、安定操業の確立に向けた取り組みを進めてまいります。

当社の事業特性上、前提となる金属価格や為替の変動に応じた実力損益の変動は避けられないものですが、それぞれの前提条件のもとで利益を最大化するべく、今後も引き続き、安定操業の維持、生産効率の向上、および成長戦略の推進に取り組んでまいります。

II. 売上総利益、セグメント利益の内訳他の詳細

ここからは、決算補足説明資料について、ポイントとなる部分のみご説明いたします。

1. 2024 年度第 3 四半期累計決算 vs 2023 年度第 3 四半期累計決算

まず 2024 年度第 3 四半期累計決算と 2023 年度第 3 四半期累計決算の比較について説明します。

1) 4 ページ セグメント別決算実績 売上総利益増減

それでは、4 ページ 2024 年度第 3 四半期累計実績 vs 2023 年度第 3 四半期累計実績のページ左上「売上総利益」のボックスをご覧ください。

まず資源セグメントの売上総利益について説明します。

【資源セグメントの売上総利益】 496 億円（80 億円の増益）となりました。

なお、ページ上部に記載のとおり、コテ金鉱山について、2024 年 11 月 30 日に IAMGOLD 社が持分の買戻しオプションを行使しました。当社はこれを会計上「重要な取引または事象」と認識し、コテ金鉱山の第 3 四半期累計期間を 2024 年 1 月から 11 月末までの 11 か月間に調整した上で連結しています。

ページ中段の「売上総利益増減説明 ※コテ金鉱山を除く」をご覧ください。

海外銅鉱山は大きな減益となる一方、金価格の上昇を受け、菱刈鉱山は増益となりました。

① 菱刈鉱山

a) 好転要因：金価格の上昇により価格差が、円安により為替差が好転しました。

② 海外銅鉱山（おもにモレンシー銅鉱山）

a) 好転要因：12 月決算会社に適用される 1-9 月の銅価格の上昇により価格差が、円安により為替差が好転しました。

b) 悪化要因：

- ・数量差：人員不足による採掘量の減少に加え、給鉱品位の低下によるものです。
- ・コスト単価差：減産、減販に加え、人件費や外注費、修繕費等が増加しました。

次に製錬セグメントについて説明します。

【製錬セグメントの売上総利益】 0 億円（590 億円の減益）となりました。

冒頭で説明したとおり、CBNC が保有するニッケル製錬にかかる固定資産の減損損失 501 億円や、ニッケル製錬プロセスの一部試験設備撤去による減損損失 34 億円、合計 535 億円を計上したこと等が大きな要因です。

ページ下段の「製錬 売上総利益増減説明」の表をご覧ください。

①銅系

a) 好転要因：2024 年度は、2023 年度に実施した東予工場の定期炉修による操業度の低下がありませんので、数量差とコスト単価差が好転しました。

b) 悪化要因：

・その他：円安の進行による加工収入の好転があったものの、2023 年度に発生した一時的な増益要因の剥落により悪化しました。

②ニッケル系

その他に含まれる減損損失 535 億円以外の要因について説明します。

a) 好転要因：

・その他：円安の進行による加工収入の好転に加え、2023 年度に発生した一時的な減益要因の剥落により、好転しました。

b) 悪化要因：

・条件差：ニッケル価格、コバルト価格の下落により悪化しました。

→ニッケル系は、加工収入が金属価格に連動する「シェアリング」という制度が適用されるため、金属価格の変動が業績に大きな影響を与えます。

2) 5 ページ 材料事業の製品群別売上高

5 ページ上段、材料事業の製品群別売上高です。電池材料については、販売価格に連動する金属価格が下がったため、減収となりました。

機能性材料については、製品によって濃淡はあるものの、長引いていた電子部品向け部材の在庫調整が進み、需要が緩やかながらも回復基調にあることから、増収となりました。

3) 5 ページ 持分法投資損益 (5 ページ中段に記載)

①セロ・ベルデ銅鉱山、カンデラリア銅鉱山

12 月決算会社に適用される 1-9 月の銅価格上昇と円安進行により価格差と為替差が好転し、いずれも増益となりました。

②その他

前年とくらべ、大幅に悪化していますが、主に、ケブラダ・ブランカ銅鉱山の生産開始にともない、前年同期には発生していなかったランプアップ等各種費用や、操業にかかる損益の PL 計上によるものです。

2. 2024年度年間予想 2月 vs 11月

続いて、2024年度予想の前回予想（11月）と今回見直した予想（2月）の比較について説明します。前提となる金属価格の期間平均は、11月予想と比べ、金価格は上昇、銅、ニッケル価格は下落、為替は円安を想定しています。

1) 6ページ 対 11月予想比較 セグメント別

それでは、6ページ 2024年度2月予想 vs 11月予想のページ左上「売上総利益」のボックスをご覧ください。資源セグメントと材料セグメントは増益、製錬セグメントは減益を予想しています。

なお、冒頭にご説明した今年度中に発現する可能性がある減益要因の「リスク要因」数十億円は、11月予想と同額を「調整額」の売上総利益の段階で計上していますので、ご注意ください。

それでは、まず資源セグメントの売上総利益について説明します。

【資源セグメントの売上総利益】 700億円（20億円の増益）と予想しています。
ページ中段、「資源 売上総利益 ※コテ金鉱山を除く」の増減説明をご覧ください。

①菱刈鉱山

a) 好転要因：金価格の上昇による価格差の好転を想定しています。

②コテ金鉱山

コテ金鉱山は、ランプアップを進めていましたが、2024年12月に発生したベルトコンベアの亀裂により、目標としていた安定的な設計処理能力の90%達成はできませんでした。その他、販売時期の後ズレなどもあり、売上総利益は、前回11月の予想を下回ると想定しています。

続いて、製錬セグメントの売上総利益について説明します。

ページ下段、「製錬 売上総利益」の増減説明をご覧ください。

【製錬セグメントの売上総利益】 210億円（160億円の減益）と予想しています。

①銅系

a) 好転要因：

金価格を上昇、また、為替を円安方向に見直したことにより、在庫評価の好転を想定しています。

②ニッケル系

a) 悪化要因：

CBNC等の減損損失を計上したこと、また、ニッケル、フェロニッケルともに減販によるコスト単価差の悪化を想定しています。

2) 7 ページ 材料事業の製品群別売上高

7 ページ上段、材料事業の製品群別売上高です。

電池材料事業については、販売価格に連動する金属価格下落の影響により、減収と想定しています。なお、2024 年度第 4 四半期から新工場の一部ラインの量産立上げを開始しました。

電池材料事業を取り巻く事業環境について、ハイブリッド車を含む電動車関連の需要は、短期的には各国の政策変更等の影響を受け不透明感が増してきています。当社も、その状況を注視しており、今後の事業展開についてもその動向等を見極めながら、慎重に検討を進めていきます。

機能性材料事業については、引き続き、電子部品市場の回復は濃淡があり、その回復は緩やかなものにとどまると想定しています。

3) 7 ページ 持分法投資損益

①セロ・ベルデ銅鉱山、カンデラリア銅鉱山

両鉱山ともに、12 月決算会社に適用される 10-12 月の銅価格が想定価格を下回ったことによる価格差の悪化を想定しています。また、カンデラリア銅鉱山は、11 月予想に比べ、減産減販となったため、数量差やコスト単価差での悪化を想定しています。

②その他

ケブラダ・ブランカ銅鉱山は、ランプアップを進め、2024 年 12 月末に目標としていた設計処理能力の 100%に到達しました。しかし、12 月決算会社に適用される 10-12 月の銅価格が想定価格を下回ったことによる価格差の悪化や、減産減販となったことによる数量差、コスト単価差の悪化を想定しています。

3. その他の業績予想比較

11 ページに「2024 年度下期予想（2 月）vs 2024 年度 2Q 累計実績」比較と「2024 年度予想（2 月）vs 2023 年度実績」比較を掲載していますので、後ほどご確認ください。

以上